

第二バチカン公会議閉幕50周年日にあたる12月8日、無原罪の聖マリアの祭日に開年する「いつくしみの特別聖年」を明日に迎えて、一週間の黙想を計画しました。世界の教会と心を合わせて、愛といつくしみによって罪深い私たちをゆるしてくださる神に感謝をささげて、特別聖年の開年の一週間を過ごしたいと思います。以下に内容を記しましたので、皆で心を合わせてお祈りいたしましょう。

祈りのプログラム

教皇フランシスコが特別聖年について記した大勅書

「イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔」と

「いつくしみの特別聖年のための祈り」を用います。

- 「愛といつくしみのあるところ、神はそこにおられる」の答唱を3回唱えます（歌います）。
- はじめの祈りとして、「いつくしみに特別聖年のための祈り」を用います。
- 「イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔」を素材として10分から15分を黙想します。
- 終わりの祈り
「わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします」を特 に意識しながら、主の祈りを唱えて黙想を終わります。

祈りの素材

第1日、第2日（12月8日、12月9日）

大勅書「イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔」の1

第3日、第4日（12月10日、12月11日）

大勅書「イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔」の2

第5日、第6日（12月12日、12月13日）

大勅書「イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔」の3の第2パラグラフまで

第7日（12月14日）

反復・繰り返し、深めたいところをもう一度黙想する。

12月13日の主日のミサでは、回心の祈りに際して、日々の究明を振り返って、思い、ことば、行い、怠りによる罪を、いつくしみ深い神がゆるしてくださるように、心を込めて祈りましょう。

教皇フランシスコ「いつくしみの特別聖年のための祈り」

主イエス・キリスト、

あなたは、わたしたちが天の御父のようにいつくしみ深い者となるよう教え、
あなたを見る者は御父を見る、と仰せになりました。

み顔を示してくださればわたしたちは救われます。

あなたの愛に満ちたまなざしによって、

ザアカイとマタイは富への執着から解き放たれ、

姦通の女とマグダラのマリアは、

この世のものだけに幸せを求めることから解放されました。

ペトロはあなたを裏切った後に涙を流し、

悔い改めた盗人には樂園が約束されました。

あなたはサマリアの女に、

「もしあなたが神のたまものを知っていたなら」と語られました。

このことばを、わたしたち一人ひとりに向けられたことばとして聞かせてください。

あなたは、目に見えない御父の、目に見えるみ顔です。

何よりもゆるしといつくしみによって、自らの力を示される神のみ顔です。

教会がこの世において、復活し栄光に満ちておられる主のみ顔となりますように。

あなたは、ご自分に仕える者が弱さを身にまとい、

無知と過ちの闇の中を歩む人々を、

心から思いやることができるようお望みになりました。

これら仕える者に出会うすべての人が、

神から必要とされ、愛され、ゆるされていると感じることができますように。

あなたの霊を送り、わたしたち一人ひとりに油を注ぎ、聖なるものとしてください。

神のいつくしみの聖なる年が、主の恵みに満ちた一年となり、

あなたの教会が新たな熱意をもって、貧しい人により知らせをもたらし、

捕らわれ、抑圧されている人に解放を、

目が見えない人に視力の回復を告げることができますように。

この祈りを、いつくしみの母であるマリアの取り次ぎによって、

御父と聖霊とともに世々に生き、治めておられるあなたにおささげいたします。

アーメン。

いつくしみの特別聖年公布の大勅書 「イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔」

1 イエス・キリストは、御父のいつくしみのみ顔です。キリスト者の信仰の神秘は、ひと言でいえばこの表現に尽きる気がします。いつくしみは生きたもの、見えるものとなり、ナザレのイエスのうちに頂点に達しました。「あわれみ豊かな」（エフェソ2・4）御父は、モーセにご自分の名を「あわれみ深く恵みに富む神、忍耐強く、いつくしみとまことに満ちる者」（出エジプト34・6）と明かされてからは、やめることなく、さまざまなかたちで、歴史の中で数々の機会に、その神性を知らせてくださいました。「時が満ち」（ガラテヤ4・4）、その救いの計画に従ってすべてが整えられると、御父はおとめマリアから生まれた御子を遣わし、わたしたちにご自分の愛を決定的に明らかになさいました。御子を見る者は父を見るのです（ヨハネ14・9参照）。ナザレのイエスは、そのことばと行い、そして全人格を通して[1]、神のいつくしみを明らかになさいます。

2 わたしたちは、つねにいつくしみの神秘を観想しなければなりません。いつくしみは喜びの源、静けさと平和の泉です。いつくしみは、わたしたちの救いに不可欠です。いつくしみ――、それは三位一体の神秘を明らかにすることばです。いつくしみ――、それは神がそれゆえにわたしたちに会いに来られる、究極の最高の行為です。いつくしみ――、それは人生の旅路で出会う兄弟と真摯に向き合うとき、それぞれの心で働く、基本となる法です。いつくしみ――、それはわたしたちの罪という限界にもかかわらず、いつも愛されているという希望を心にもたらすもので、神と人が一つになる道です。

3 わたしたちのまなざしを、もっと真剣にいつくしみへと向けるよう招かれるときもあります。わたしたちが、御父の振る舞いを示す効果的なしるしとなるためです。これこそ、わたしがこのいつくしみの特別聖年を公布した理由です。この特別聖年は、信者のあかしがより力強く、より効果的になるために、教会にとってふさわしい時となるでしょう。

この聖年は、2015年12月8日、無原罪の聖マリアの祭日に開年します。典礼におけるこの祝いは、わたしたちの歴史の初めから、神がどのように振る舞われてきたかを示します。アダムとエバが罪を犯して以来、神は人類を孤独のうちに、悪の手の中に捨て置くことを望まれませんでした。だからこそ神は、マリアを愛のうちに聖なる者、汚れのない者にしようと考え、そう望まれたのです（エフェソ1・4参照）。それは、マリアが人間のあがないの主の母となるた

めでした。罪の重大さを前にして、神は最高のゆるしをもっておこたえになりました。いつくしみはつねにあらゆる罪を凌駕し、ゆるしを与える神の愛を阻むものは何也不会ありません。この無原罪の聖マリアの祭日に、わたしは喜びをもって聖なる扉を開きます。それを機に、その扉はいつくしみの扉となるでしょう。そこから入る人はだれであれ、慰めとゆるしと希望を与える神の愛を経験することができるでしょう。